今後も、健全な 財政運営を！

平成24年第１回定例会は、３月２日から３月19日までの18日間で行われ、提案された議案32件は、原案のとおり可決・承認されました。

開会を宣言する三角議長

平成24年度 一般会計予算

全員賛成で可決！

過去最高 75億7,000万円

前年度比４億８千万円の増額予算

◇一般会計

平成24年度の一般会計当初予算は、歳入歳出総額75億７０００万円で可決されました。

この予算には、25年度に開園を予定している第二幼児園建設関係の事業費を含んでおり、前年度当初予算と比較すると４億８４００万円の増額で、伸び率６・８％と、23年度に引き続き70億円を超える予算となりました。

歳入において、町税の個人住民税は、雇用・消費の動向が依然厳しい状況に変わりなく、若干の持ち直しを見込み２％の増としていますが、固定資産税は、24年度が３年に１度の評価替えの年に当たることから３・６％の減となっています。

町税全体としては、０・４％の増、１０２０万円の増収を見込んでいます。

国家予算の２割を占める地方交付税は、政府の財政運営戦略・中期財政フレームに沿って、平成23年度と実質的に同水準となるよう確保されたことから、３・７％の増となっています。

歳入全体の財源不足については、減債基金の取り崩し２億８０００万円で対応しています。

歳出については、不要な予算や効果があまり期待できない施策は抑制を図り、行財政改革を推進する予算となっています。

人件費では、これまで職員数の削減に積極的に取り組んでおり、24年度の職員数は、特別職を含め１４４人、前年度と比較すると６人の減となっています。

職員給与については、負担率の引き下げや職員数の減により１６００万円の減額となりました。

道路整備をはじめとする基盤整備事業などの普通建設事業費は、前年度と比較すると３倍の予算８億２６００万円が計上されています。

主な事業として、第二幼児園建設等の事業がおよそ５億円、道路改良等の土木事業がおよそ１億５０００万円、文化会館・あおば会館周辺施設の公共下水道接続工事がおよそ２３００万円等、５億５０００万円の増額となっています。

今後とも、安全で安心な住みよいまちづくりを目指し、なお一層気持ちを引き締めて、健全な財政運営に努めているか厳しくチェックしていきたいと思います。

平成24年度各会計当初予算額

会計区分		H24年度予算額	H23年度予算額	比較(%)	可・否
一般会計		75億7,000万円	70億8,600万円	6.8	全員賛成で可決
国民健康保険特別会計		29億9,308万円	28億8,152万円	3.9	全員賛成で可決
後期高齢者医療特別会計		2億4,541万円	2億3,250万円	5.5	全員賛成で可決
公共下水道事業特別会計		11億 767万円	10億5,665万円	4.8	全員賛成で可決
農業集落排水事業特別会計		8,033万円	9,513万円	△15.6	全員賛成で可決
水道事業会計	収益的支出	5億6,125万円	5億6,761万円	△1.1	全員賛成で可決
	資本的支出	2億1,254万円	2億8,298万円	△24.9	

国保への流入増加

◇国民健康保険特別会計

平成24年度の国民健康保険特別会計予算は、歳入歳出総額29億９３０８万４０００円で可決されました。

前年度と比較すると１億１１５６万２０００円、率にして３・９％の増額となっています。

国民健康保険は、少子化や後期高齢者医療制度への移行の影響と、経済の低迷が長期化しリストラによる失業者の国保への流入が増加しています。

また、他の保険制度に加入しない低所得者や、75歳未満の前期高齢者を多く抱えるという構造的な問題を抱えていますが、須恵町国民健康保険の財政安定化を図り、町民皆保険を堅持し、将来にわたり持続可能なものとしていかなければなりません。

良質的な水を安定的に

◇水道事業会計

収益的収支予算の収入額は、５億８２３７万円で、前年度と比較すると０・８％の増額となっています。

支出額は、５億６１２４万５０００円で、前年度と比較すると１・１％の減額となっています。

これは、企業団への受水費、人件費並びに企業債の支払利息等の減によるものです。

24年度は２１１２万５０００円程度の利益剰余金が見込まれます。

23年度、須恵ダムに泥水が流れ込み水が濁ったため、緊急対応策として防護膜を設置しましたが、良質な水を安定的に供給できるよう、24年度は第二浄水場の基本計画策定業務委託料が予算化されています。

資本的収支予算の収入額は、５０００万円で、前年度と比較すると50・５％の減額となっています。

これは、石綿管改良工事に伴う企業債及び国庫補助金の減によるものです。

支出額は、２億１２５３万６０００円で、前年度と比較すると24・９％の減額となっています。

これは、配水施設改良工事の減によるものです。

不足する額１億６２５３万６０００円は、※損益勘定留保資金で補てんされます。

泥水防護膜が設置された須恵ダム

※損益勘定留保資金

現金支出を伴わない減価償却費や資産減耗費など、水道企業の内部に留保される資金のことです。

収入が不足する場合の補てん財源となります。